



## 第 5 回

## 関西大学初等部

## 研究発表会

### 第5回研究発表会を開催するにあたって

「大学入試 知識より思考」、これは昨年6月の日本経済新聞の見出しです。

開校5年、漸く私たちの取り組みも時代に添うことができるのかなと思っています。

21世紀は、変化が激しく予測すら困難な時代、そして、知識基盤社会が来るといわれています。まさしく解の無い、定まらない時代の到来です。そのような世界において重要なのは豊かな教養や能力であり、とりわけ思考力は不可欠な資質であると信じてやってきました。

初年度は「思考スキルとシンキングツール」、次年度からは「教科独自の思考スキル」、そして今年度は「思考スキルを診る」と題し、より適切な思考スキルと授業デザインについて取り組んできました。しかし、研究の中身は果たして意味のあるものなのか、またその方向性は正しいのか、未だ杓として確たる自信の無いところです。

つきましては、寒中、誠に心苦しい限りですが、是非とも多くの皆様に来校頂き、ご指導、お力添えをお願いする次第です。

関西大学初等部校長 田中 明文

### 研究主題

思考スキルを診るー授業デザインを省察するためにー

- 1 開催日 **平成27年2月7日(土)**
- 2 会場 関西大学初等部  
〒569-1098  
大阪府高槻市白梅町7-1  
  
Tel 072-684-4312
- 3 交通アクセス JR高槻駅より徒歩7分  
阪急高槻市駅より徒歩10分
- 4 後援 大阪府教育委員会
- 5 参加対象者 教育関係者・一般（受験対象保護者）
- 6 参加費 3,000円（事前振込要）  
（研究紀要、指導案集、ミュージズ学習ガイドブック等含む。）  
（受験対象保護者については無料です。）
- 7 申し込み方法 ホームページより申し込み  
<http://www.kansai-u.ac.jp/elementary/>

※当日の混乱を避けるため、定員を設けています。

※昼食は、キャンパス内にレストランがございますが、混み合うことが予想されますので、弁当の予約販売をいたします。研究発表会の申し込み画面から申し込みいただけます。（事前振込要）

関西大学高槻ミュージズキャンパスでは、初等部の「ミュージズ学習」、中等部の「考える科」、高等部の「プロジェクト学習」と思考力育成をめざして実践に取り組んでいます。

初等部の「ミュージズ学習」とは、論理的に伝える力を育てるために重要な、教科横断的に活用される6つの思考スキルを習得する学習です。

本校の研究は、「ミュージズ学習」の創造からスタートしました。そして最近の2年間は、各教科における教科特有の思考スキルについて研究を進めてきました。

しかし、教科特有の思考スキルを探ることを目的としたにも関わらず、反対に各教科の先にある教科横断的で汎用性の高い思考スキルの重要性に改めて気づかされたのです。

そこで、今年度は、「教科特有の思考スキル」をマイナーチェンジした「教科等で大切にしたい思考スキル」を教科等の内容と具体的な動詞を組み合わせる形で提案します。

当日は、ミュージズ学習・各教科・総合的な学習の時間・英語活動の計20本の授業を公開します。授業後には、授業の内容について主に教科指導の面から各授業者と直接対面して話し合う**授業反省会**、さらに、子どもの発達に応じた思考スキルを習得・活用させるための各学年の取り組みについて子どもの実態から各学年団と話し合う**学年協議会**を行います。

協議会やシンポジウムにて忌憚のないご意見をいただけると幸いです。

受付	全体会	公開授業①	休憩	公開授業②	公開授業③	休憩・昼食	授業反省会	休憩	学年協議会	休憩	シンポジウム	閉会
----	-----	-------	----	-------	-------	-------	-------	----	-------	----	--------	----

＊公開授業①

学年	教科	単元名	授業者	内容
1年 2組	ミュージズ学習	かぞくニコニコ大作戦	山本文子 三宅貴久子	一人ひとりが冬休みに取り組んだお手伝いについての考えをまとめる活動を通して、 <b>構造化する思考スキル</b> を習得します。
6年 2組	ミュージズ学習	頭の使い方をのぞいてみよう	古本温久 松本京子	自分の頭の使い方（ <b>思考スキルの使い方</b> ）を見る化し、頭の使い方を自己評価したり相互評価したりします。

＊公開授業②

学年	教科	単元名	授業者	内容
1年 1組	国語	古典の世界に でかけよう	西 勝巳	昔の世界を、 <b>言葉のイメージで広げてみます</b> 。入門期における伝統的な言語文化（古典）を習得する授業デザインを提案します。
2年 2組	算数	九九のきまり	今田雅彦	アレイ図をもとに <b>問いを見だし</b> 、互いに交流し、自分たちの考えを <b>言葉や式でまとめていく</b> 授業を展開します。
3年 1組	算数	かけ算（2）	尾崎正彦	子どもが <b>問いを見だし</b> 計算授業です。答えの数字に秘密を発見し、式を創り出します。その結果を <b>言葉や式でまとめます</b> 。
3年 2組	理科	じしゃくにつけよう	孕石泰孝	「物質の様子を図で描く」思考スキルを活用して磁石の中身を推測し、磁石の仕組みやはたらきについて探ります。
4年 1組	英語活動	比べる表現を使おう	田淵良二 ライアン藤居 中 タ子	形容詞を使って比較する言い方を発展させ、ゲームで <b>分類・整理</b> する作業を通して、友だちとのやりとりを楽しみます。
4年 2組	社会	大阪府の人々の暮らし	石井芳生	200年以上も前から受け継がれてきた高槻寒天。その伝統が守られてきたわけを地形や気候等と <b>関係づけながら</b> 探ります。
5年 1組 中等部 1年	総合	もっと広めよう!! 私たちのエコ活動	山中昭岳	自ら実践したエコ活動や収集した情報を <b>思考スキルを活用して整理・分析し</b> 、環境問題に対しての自らの考動を見いだします。
5年 2組	音楽	曲想を生かして表現しよう	木村三津代	歌詞の内容と音楽を特徴づけている要素を関連づけ、 <b>イメージを広げて</b> 表現に生かします。
6年 1組	国語	読書座談会を開こう 一立松和平 「いのちシリーズ」を 読んでー	松本京子	「いのちシリーズ」を多読し、読み取ったことと自分の経験を <b>関連づけて</b> 、自分の「命論」をまとめます。

＊公開授業③

学年	教科	単元名	授業者	内容
1年 1組	英語活動	お話の続きをつくらう	Steven Wong 梅本龍多	Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?に出てくる生き物を、自分なりの視点で <b>Xチャート</b> などを使って <b>分類し</b> 、もう一つ生き物を加えます。
1年 2組	算数	ものとひとつのかず	山本文子	順序数と集合数の関係を一人ひとりが <b>図に表し</b> 、順序立てて解決していきます。
2年	生活	大きくなったよ	小森康裕 古谷夏奈	自分自身の成長をふりかえります。自分たちの成長に対する気づきを <b>分類して整理し</b> 、交流します。
3年 2組	国語	「日本つくり話」を書こう ー「三年とうげ」(光村図書) 「うさぎのさいばん」(三省堂)ー	今宮信吾	みんながよく知っている昔話を複数つなぎ合わせて、場面の展開や文章の表記を <b>変換して</b> 「日本つくり話」を書き上げます。
4年 1組	国語	興味をもったところを中心に紹介しよう	塩谷京子	説明文「ウナギのなぞを追って」を読んだ後、興味をもった内容を要約して紹介するために、 <b>文章を構造化</b> します。
5年 1組	社会	国土の開発と自然	堀 カ斗	諸外国がかかえる環境問題と産業・国民生活を <b>関係づけてとらえる</b> ことで、「どのように解決すべきか」を分析する方法を身につけます。
5年 2組	総合	私たちにできる 途上国支援	三宅貴久子	環境や食料の視点からみえる途上国の問題を、 <b>思考スキルを使って分析し</b> 、国際協力の在り方について自分の考えをもたせませす。
6年 1組	理科	電気の利用	長戸 基	「電気をつくって・ためて・使う」ことについて、「 <b>現象と要因を関係づける</b> 」思考スキルを活用して推論します。
6年 2組	算数	割合を使って	古本温久	全体を「1」とみて解決する問題に取り組めます。 <b>問いを見いだしたり式や図に変換したりする</b> 思考スキルを「ふきだし法」を用いて診とります。

＊学年協議会テーマ

協議会	テーマ	担当
1年	学習の入門期における思考スキルの習得と活用に向けた授業デザイン	西、山本、梅本、ウォン
2年	ミュージズ学習と教科等をつなぐ授業デザイン	小森、古谷、今田
3年	自分の考えを自覚化させて思考を促す授業デザイン	今宮、尾崎、孕石
4年	思考スキル活用の手だてと診とりを軸にした授業デザイン	石井、塩谷、田淵、ライアン、中
5年	思考スキルの習得・活用のスパイラルを意図した授業デザイン	山中、三宅、堀、木村
6年	自らの思考スキルを省察できる子どもを育てる授業デザイン	松本、古本、長戸

＊シンポジウム

『思考スキルを診る～授業デザインを省察するために～』



司会  
黒上晴夫  
関西大学  
総合情報学部教授



シンポジスト  
田村 学  
文部科学省  
初等中等教育局  
教科調査官



シンポジスト  
堀田龍也  
東北大学大学院  
情報科学研究科  
教授